

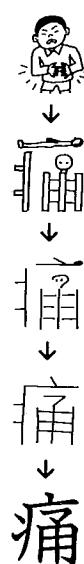
痛

六年
画数

筆順
オノツウ

12 いたいむりめる

成り立ち



寝ている人の形と、ベッドの形とで、「病氣」の意味を表した「**ナ**」と、「通信」の意味の「**甫**」とを組み合わせて作った字です。

「病氣であることを通信する『いたみ』」を表した字です。人は、胃が痛むと、初めて胃が病氣の状態にあることが分かるのです。「痛み」は、病氣ではなくて、「病氣にかかったことを知らてくれる『通信』」なのです。

「いたみ」、「いたむ」こと、「いためる」こと。**例**頭痛、腹痛、苦痛、鎮痛、心痛、沈痛、激痛。

また、「ひどく」の意味を「痛く」と言うところから、「ひどく」「非常に」の意味にも使います。**例**痛快、痛感、痛烈、痛切、痛慣。

使い方

▽ ぼくはスキーが好きです。リフトで山のてっぺんまで登って、一気に滑りおりるのは、とても痛快です。
ただの食べすぎなら、そのうち痛みはおさまるわよ」と言いました。

▽ 食べすぎたせいで、腹痛を起こしてしまったので、鎮痛剤を飲もうとしたら、おかあさんが、「やたらに薬を飲むものじやありません。少し位なら我慢しなさい。

▽ ぱくはスキーリフトで山のてっぺんまで登って、一気に滑りおりるのは、とても痛快です。

熱語例

▽ 頭痛（頭が痛むこと。）

▽ 腹痛（おなかが痛むこと。）

▽ 恶心（苦しく痛むこと。身体的な痛みにも、精神的な痛みにも、つかいます。）

▽ 鎮痛（痛みを鎮めること。）

▽ 心痛（心を痛めること。）

▽ 沈痛（悲しみや心配などで沈んだ痛々しいようす。「沈痛な表情」などというふうに、つかいます。）

▽ 激痛（激しい痛み。）

▽ 痛快（非常に愉快なこと。）

▽ 痛感（強く感じること。）

使い方

展

六年
画数

筆順
オン

10 ウン
テン

戸屏 展展

成り立ち



人が体をゆつたりとさせてすわっている形の「**𠂔**」と、ゆつたりとした衣服の意味の「**衤**」の省略された「**共**」とを組み合わせて作った字です。

「ゆつたりとした衣服を身につけ、体をのびのびとさせること」を表した字です。

「体を『のばす』」ことです。今は、「物を『のばす』こと、「のばし広げる」ことの意味に使います。**例**展示、展開、展覧会、親展。

「のびる」こと、「のび広がる」という意味にも使われます。**例**進展、発展、展開。

また、「展覧会」の略語として使われます。**例**美術展、名画展、個展。

九年

使い方

▽ わたしは上野でひらかれた近代絵画の展覧会に行きました。近代絵画の展覧会に行くのは、これが初めてでしたので、とてもびっくりしました。近代の絵というのは、ずいぶん変わっていると思います。

▽ ぼくの町は、最近大変に発展しました。色々な企業が進出して来て、活気があふれています。また、さまざま催しが企画され、展示会などもひらかれて、文化的にも進展しました。将来がとても楽しみです。

▽ ぱくはスキーリフトで山のてっぺんまで登って、一気に滑りおりるのは、とても痛快です。

▽ いたいむりめる

熱語例

▽ 展示（たくさんものを広げて見せること。）

▽ 展開（くり広げること。のび広がること。「試合の展開は興味深かつた」などというふうに、つかいます。）

▽ 展覧会（何かを広げて見せる催し）

▽ 親展（本人が開くように、手紙のあて名のわきにそえて書く言葉。ほかの人は聞いて読んではいけませんといふしるし）

▽ 進展（進歩発展すること。）

▽ 発展（のびえること。）

使い方

▽ 戸屏 展展

▽ ばくはスキーリフトで山のてっぺんまで登って、一気に滑りおりるのは、とても痛快です。

▽ いたいむりめる

▽ ぱくはスキーリフトで山のてっぺんまで登って、一気に滑りおりるのは、とても痛快です。

▽ ひらかれた近代絵画の展覧会

▽ ひらかれた近代絵画の展覧会

▽ ひらかれた近代絵画の展覧会

▽ ひらかれた近代絵画の展覧会

▽ ひらかれた近代絵画の展覧会